

ボランティア活動のてびき



草津市社協キャラクター
ふくちゃん

社会福祉法人草津市社会福祉協議会

1. 「ボランティア活動」ってなに？

最近、ボランティア活動は子どもから高齢者までいたるところで幅ひろく広がっています。

1995年に発生した「阪神・淡路大震災」では、140万人とも言われる様々な属性・年代の人がボランティア活動を展開したことから、ボランティア活動への社会的な注目が高まり、その年が「ボランティア元年」と呼ばれるようになりました。



以降、「ボランティアは特別な人の特別な活動」というイメージから「いつでも、どこでも、誰でもできる活動」という理解が広まるとともに、様々な社会の課題に関心を持ち、その解決に向けて自主的・自発的に取り組むボランティア活動に共感する人が増えています。

ボランティアの語源

「ボランティア」とはラテン語では「自由意志」、フランス語では「喜びの精神」、英語の名詞では「志願兵、義勇兵」、動詞では「自発的に申し出る」という意味で訳されています。

2. ボランティア活動の高まりの背景

1 生活のゆとりと社会の貢献

週休2日制や労働時間の短縮により、人々の余暇時間が増え、生活にゆとりが生じることにより、ボランティア活動を通して社会に貢献したい、生き甲斐のある充実した日々を送りたいという人々が増えてきました。



2 社会の変化と市民の自立

高学歴化、女性の社会進出の進展などにより、自ら知識や技術を身につけた市民が行政に頼ることなく、社会的課題に自発的に取り組み始めました。

3 地域のつながりの希薄化

核家族化の進展、社会保障制度の充実によって地域の相互扶助の精神が薄らいできました。転入者や単身世帯なども含めて、高齢者・児童の見守り、防犯活動、青少年の健全育成等あらゆる面で、より一層連携を強化していくことが必要となります。

4 社会的認識と評価

阪神・淡路大震災や東日本大震災などでのボランティア活動の活躍が目立っています。このような活動によって、ボランティア活動に対する人々の認識や評価、関心が高まっています。

3. ボランティア活動で大切にしたいこと



1 自主性・主体性に基づく活動

個人の自発的な自由意思に基づいて行われる活動であって、人から命令や強要されて行うものではありません。

2 社会性・連帯性がある活動

課題を発見し、改善していくためには一人ひとりが考えることと、多くの人びとと協力しながら力を合わせて行動することが大切です。新たな人間関係が育まれることにもつながります。

3 無償性・非営利性に基づく活動

活動の対価や見返りを求めない無償の活動であり、ボランティア活動の報酬は、自分の満足感や人とかかわることによって得られる人間関係です。

* 交通費や食費、材料費などの実費弁償など必要な経費は受領していただいても問題ありません。

* 特に市社協のボランティア登録については、無償性を大切にして社会貢献活動を広げるためにこの点を重要視しています。

4 創造性・先駆性がある活動

従来の考え方にとらわれることなく、自由な発想やアイデアを大切にしながら、方法やしぐみを考え、創り出していくことが大切です。

4. ボランティア活動を始めるまえに

1 身近なところから無理のない活動を

私たちの身の回りには、様々な課題があります。

まず、身近な地域の課題に気づき、小さなことから活動を始めていくことが大切です。できることから、無理をせずはじめてみましょう。



2 長く継続性を持たせる活動に

ささやかな活動でも継続することで、大きな成果が現れてきます。

そのためには、長く無理をしないでできる活動を生活のリズムの中に取り入れることが必要です。

また、できないことははっきり断ることも大切です。

3 相手の思いにあわせることも大切

よかれと思ってやったことが、相手にとって迷惑になってしまったりは意味がありません。自分のペースだけで行動するのではなく、相手の思いを確かめてから活動することが必要です。

また、相手ができることまでいろいろやってしまうより、じっと見守ることが必要なときもあります。

4 約束・秘密を守る

どんな小さな活動でも約束・秘密を守ること、責任を果たすことが大切です。責任ある活動が相手との信頼関係を確かにし、ボランティア活動を充実させることとなります。

5 個人情報やプライバシーを守る

活動を通じて相手の人間関係を耳にすることや、また個人的な相談を受けることもあります。必要なこと以外は決して他言しないことです。活動で知り得た個人の情報やプライバシーを守ることは大変重要なことです。

6 活動にけじめをつける

活動できる内容、時間や場所には限りがあります。この限界を見極め、可能な範囲で、目的にあわせてけじめある活動をすることが大切です。

7 いつも謙虚であることを忘れない

ボランティアは積極性を要求されますが、一方では謙虚さも必要です。「してあげる」のではなく、協力者であり支援者であることを忘れず、絶えず尋ねる姿勢、相手から学ぶ姿勢が必要で、その中から信頼が生まれてきます。

8 家族や職場の理解を得ながら活動を

家族や職場など、周囲の理解を得ながら活動しましょう。活動を言い訳にして、時間にルーズになるなど、周囲の信頼を裏切ることのないように心がけ、継続した活動ができるよう努力しましょう。また、困ったときなどに相談できる仲間づくりも大切です。

9 活動を振り返る

活動には波もあり、またニーズが変わってくる場合もあります。

活動に慣れてくると、自分のペースで行動しがちになり、相手のことを考えなくなってしまうこともあります。

自分自身を見なおすためにも、自らの活動を振り返り、点検と評価を行い記録を整理し、次の活動につなげましょう。

10 活動を知り、学ぶ

ボランティア活動は人や制度を変え、ときには社会や環境さえ変革していく可能性をもっています。

社会の問題やボランティア活動の現状を知り、視野を広く持ち、常に新しい情報の収集と理解に努める必要があります。

さまざまな場を活用して、学習しましょう。

5. どんなボランティア活動があるの？

主役はあなたです。

いつでも どこでも だれでも気軽にはじめてみませんか



1 収集ボランティア

- ペットボトルキャップ収集
障害者福祉施設等で分別洗浄され、プランターに再利用されます。
- プルトップ収集
集められたプルトップを換金し、そのお金で車椅子を購入し施設等に贈られます。

○ 使用済切手

誕生日ありがとう運動本部に送られ、しおりやストラップなどのグッズに生まれ変わります。売上金は、知力ハンディキャップをもつ子の福祉の向上に活用されます。

これらの他にも、さまざまな収集ボランティアがあります。

2 特技を活かしたボランティア

音楽や手品、演芸、バルーン、健康マーじゃん、おもちゃの修理、紙芝居、舞踊、縫い物、体操などの特技を活かしてボランティア活動を行います。

3 高齢者や障害者支援ボランティア

高齢者のお話し相手など、自助具製作・手話通訳・点訳・要約筆記・拡大図書などのボランティア活動を行います。

4 子育て・青少年・外国人・患者・災害支援ボランティア

5 防犯・環境・観光ボランティア

6 送迎ボランティア

福祉車両を使って外出が困難な高齢者や障害者の外出支援をします。

7 高齢者地域サロンボランティア

閉じこもりがちな高齢者を要介護に陥らないために町会館等で開催するサロンのボランティアです。

6. ボランティアセンターって



ボランティアセンターは、「活動したい人」

「求めている人」の相談窓口で市社会福祉協議会が運営しています。

- 1 ボランティアに関する相談、情報の提供
- 2 ボランティア講座・研修の実施
- 3 ボランティア活動の希望者と援助希望者の需給調整
- 4 ボランティアグループ活動の応援
- 5 連絡調整
- 6 調査・研究
- 7 ボランティア保険の窓口

7. ボランティア活動保険に加入しよう



日本国内でのボランティア活動中のケガや

賠償責任を補償します。

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- ボランティア活動のための学習会や会議などでの事故も補償
- ボランティア自身の食中毒・熱中症・特定感染症も補償